

全社児福発第 172 号
平成 22 年 7 月 23 日

全国保育協議会 会員保育所 各位

社会福祉法人 全国社会福祉協議会
全国 保 育 協 議 会
会 長 小 川 益 丸
(公印略)

子どものために認可保育所は自園調理を堅持しましょう！

日頃より本会事業の推進にご協力を賜り深謝いたします。

さて、平成 22 年 6 月 1 日の児童福祉最低基準の一部改正により、これまで構造改革特別区域の公立保育所にのみ認められていた保育所給食の外部搬入が、全国の公私立保育所すべてで容認される（ただし 3 歳以上児に限る）ことになりました。

保育所給食の外部搬入は、今まで保育所が自園調理の中で行ってきた子ども一人ひとりにあわせた食事の提供を難しくするだけでなく、食育をとおした子どもの発達支援にも影響を及ぼすことが懸念されます。これまで、全国保育協議会は 1 月と 5 月に意見書を提出し、子どもの育ちを守るために、一貫して保育所給食の外部搬入方式について反対表明をしてきました。

ぜひ現在、保育所で実施している自園調理の大切さを再認識していただき、下記の視点に立ち、子どもの最善の利益の保障の視点から自園調理を堅持し、給食室を活用した食事等の提供を堅持していただくようお願いいたします。

(1) 自園調理で、一人ひとりの子どもの発達と日々の状況に応じた食事の提供を続けましょう。

乳児に限らず 3 歳以上の子どもについても、その日その日の体調等に応じて、食事を提供することが必要です。とくに、障害やアレルギーがある子どもは、体調も変化しやすく日々、配慮する必要があります。保育所では、保護者・保育士・調理員・栄養士等が十分な連携を行い、日々、きめ細かく調理内容を変えて食事を提供しています。こうしたことは、自園調理であるからこそできるものであり、外部搬入では対応が難しくなります。

(2) 自園調理で、子どもの生活リズムにあわせて「できたての食事」を提供していきましょう。

子どもにとって生活のリズムに合わせて食事を提供することは発達を促すうえで、また食への興味を育てるうえで重要です。外部搬入は、保育所ごとに一斉に配食されることから、子どもの食事時間に合わせ、できたての食事を提供することは困難です。また、交通事情などによる遅延などにより、食事の時間を変更せざるをえないなどの悪影響も懸念されます。

(3) 自園調理で、こころのこもった手作りの食事、おやつ、軽食を提供していきましょう。

保育所のおやつは補食として提供するものです。したがって、10時や3時という時間だけでなく、延長保育や朝食を取ってこられなかった子どもに補食・軽食として提供されたり、量を変えて提供することもあります。外部搬入では、こうしたきめ細かなおやつを提供することが難しくなります。また、手作り感あふれるおやつの提供も困難です。

(4) 調理設備を活用し、食育活動をさらに充実しましょう。

多くの保育所では、保育所の食育はクッキング保育や野菜を育てる等ということだけではなく、保育士と調理員の日常的連携のもとに進めています。

食事を作る時の香りや音などを身近に感じることでお腹のすくりズムが持てたり、調理する姿を見ることで感謝の気持ちや食事に関心を持てたりするなど、日常生活の中ですすめることが大切です。調理設備を活用し、食育活動をさらに進めていきましょう。

(5) 調理設備を活用し、保護者や地域の子育て家庭に対する子育て支援を進めましょう。

多くの保育所が保護者や地域の子育て家庭に対し、給食の試食体験や離乳食講座等を実施して、子育て支援活動を行っています。保育所で給食を作らなくなると、こうした取り組みも難しくなります。保育所で行っている食を通じた子育て支援の重要性を再認識し、保護者や地域の子育て家庭に対する子育て支援をさらに進めていきましょう。



《問合せ先》全国保育協議会事務局（担当：今井、岡澤）
〒100-8980 東京都千代田区霞が関3 - 3 - 2 新霞が関ビル内
TEL 03-3581-6503 FAX 03-3581-6509